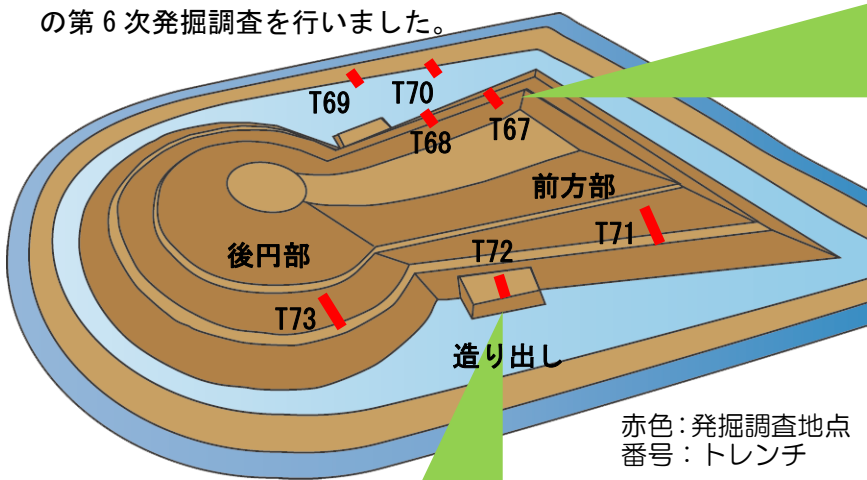


両宮山古墳第6次発掘調査速報 備前最大の前方後円墳の解明へ

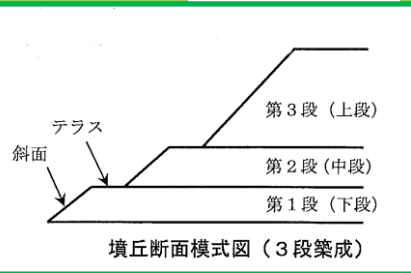
平成27年12月から平成28年2月までの3ヶ月間、備前地域最大を誇る両宮山古墳（5世紀後半築造：墳丘の長さ206m）の第6次発掘調査を行いました。



T67 前方部東側面
第1段テラス～第2段斜面



T72 造り出し



墳丘裾の保存（護岸）工事の事前調査として、7本のトレンチ（試掘溝：T67～73）を設定し調査しました。

前方部側面の調査（T67・71）では、第1段テラスから第2段斜面の盛土状況や傾斜変換点を確認しました。第1段テラス付近では水平方向の盛土、第2段斜面では斜面に沿って黒色と黄色の盛土が見られました。

現状で高く2段に見える造り出し（T72）は、上部は江戸時代以降の造成によるものと思われ、第1段テラスあるいは第1段斜面に取り付く可能性が考えられます。

巨大前方後円墳の墳丘構築方法が分かった貴重な調査事例となりました。

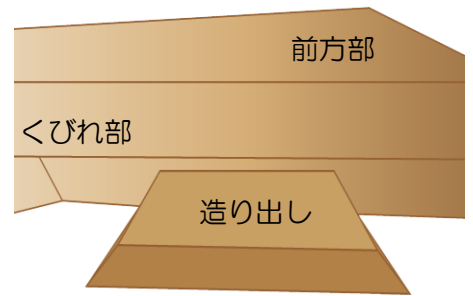
つくだ 両宮山古墳 造り出しからも古墳に関する遺物の出土なし

造り出し：古墳時代中期に発達する、くびれ部付近に取り付く方形台状の施設。
その多くが祭祀場さいしほの可能性はある。



「造り出し」といえば、家形いえがたや柵形さくがた埴輪はにわ、たくさんの土器が出土するイメージをもたれている方も多いと思います。

両宮山古墳からは、これまで埴輪はにわや蓋石ふきいしといった外表施設が見つかりません。今回調査した造り出しからも古墳に関する遺物の出土がありませんでした。古墳のおまつりが行われなかったのでしょうか？



横から見た造り出しのイメージ



両宮山古墳の歴史的な位置付けを行うとともに、今回の調査の最終目的である墳丘の崩落を防止する保存工事の計画を立てていきます。通常は水面下で見えませんが、水を抜くと水面付近の墳丘裾は池の水で洗われ、えぐれたり、崩落が生じたりしています。

計画策定の後には、保存工事を実施する予定です。地元の皆様には、ご協力よろしく申し上げます。



墳丘の土が崩落しそうなところ（後円部）



墳丘の裾がひさしのような場所（前方部南西隅）